

環境報告書

2025



かのや
国立大学法人 **鹿屋体育大学**
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

環 境 方 針

基本理念

環境問題は、人類の将来の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題の一つであります。

本学も、国立大学法人として極めて高い公共性を有し社会的責務を負っているとの認識から、教育・研究等あらゆる活動をとおして環境負荷の軽減に取り組み、持続可能な社会を目指し、大学としての責務を果たします。

環境方針

■省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量化・適正管理等に努め、環境負荷の少ない快適な学内環境の構築に取り組みます。

■環境に関わる法令、規制、協定等を遵守し、環境保護及び汚染の予防に努めます。

■環境問題に関わる啓発活動を図ることにより環境配慮の取り組みを推進します。

【2025年9月】

環境取組体制 組織図

国立大学法人鹿屋体育大学における地球温暖化対策に関する実施計画の推進体制

学 長

財務・施設環境委員会（常任委員会）

推進員連絡会

■トップダウンによる組織体制
■全学的な取組システム

推進責任者：理事（組織・運営担当）・副学長・事務局長

推進員：スポーツ・武道実践科学系主任（系副主任）

実務担当者(WG会議)

推進員：スポーツ生命科学系主任（系副主任）

実務担当者(WG会議)

推進員：スポーツ人文・応用社会科学系主任（系副主任）

実務担当者(WG会議)

推進員：学長指名教員（財務・施設環境委員会）

推進員：学生課長

実務担当者：学生企画係長(WG会議)

推進員：総務課長

実務担当者：総務係長(WG会議)

推進員：経営戦略課長

実務担当者：予算決算係長(WG会議)

推進員：施設課長

実務担当者：電気設備係員(WG会議)

環境配慮実施計画

(目標・期間)

本学から排出される温室効果ガス（CO₂）排出量を
基準年度(令和元年度)に対し建物延床面積当たり
10年間(令和3年度～令和12年度)で10パーセント以上削減する

(グリーン購入の推進・リサイクル活動・省資源対策)

1. 財やサービスの購入・使用に当たっての配慮
 - (1) 低公害公用車の導入
 - (2) 自動車の効率的利用
 - (3) エネルギー消費効率の高い機器の導入
 - (4) 用紙類の使用量の削減
 - (5) グリーン購入法対応製品の使用等の促進
 - (6) ノンフロン等を使用した製品等の購入・使用の促進等
 - (7) その他

(省エネルギーの推進)

2. 建築物の建築、管理等に当たっての配慮
 - (1) 環境にやさしい大学施設への整備の推進
 - (2) 既存の建築物における省エネルギー対策の徹底
 - (3) 温室効果ガスの排出の抑制等に資する建設資材等の選択
 - (4) 温室効果ガスの排出の少ない空調設備の導入
 - (5) 冷暖房の適正な温度管理
 - (6) 水の有効利用
 - (7) 敷地内の環境の適正な維持管理の推進
 - (8) その他

(省エネルギーの推進・ごみの減量及び適正管理)

3. その他の事務・事業に当たっての
温室効果ガスの排出の抑制等への配慮
 - (1) エネルギー使用量の抑制
 - (2) ごみの分別
 - (3) 廃棄物の減量

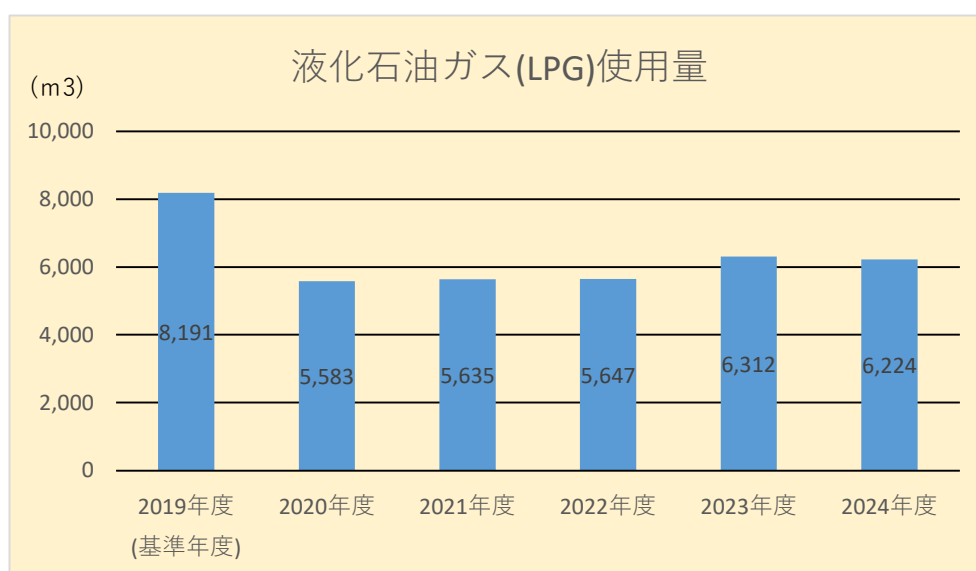
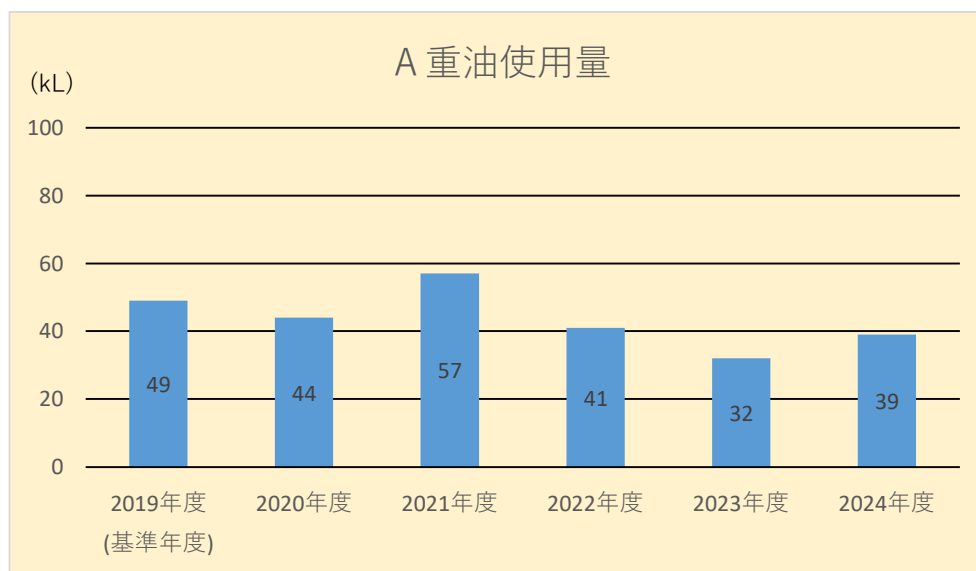
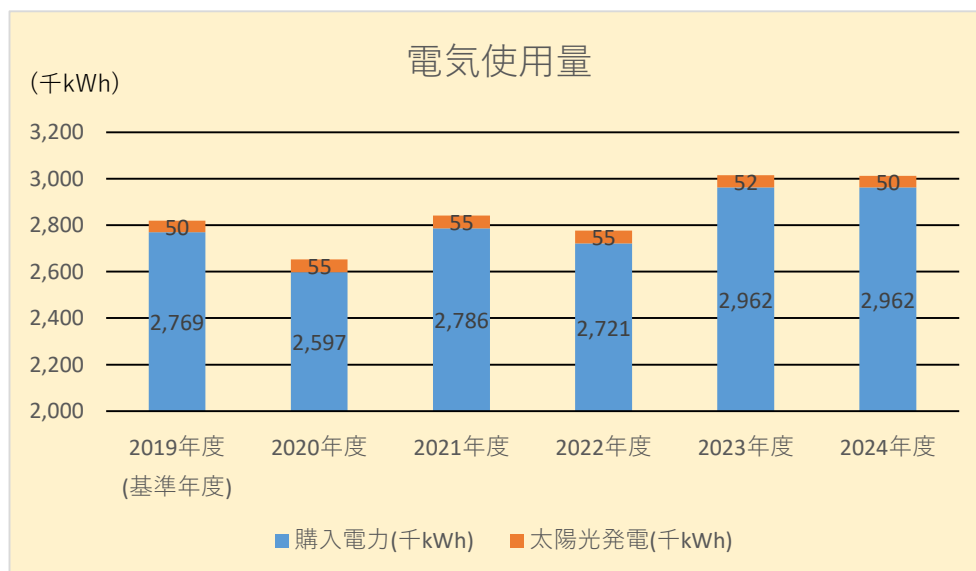
(啓発活動・教育)

4. 職員及び学生等に対する情報提供等
 - (1) 職員及び学生等に対する地球温暖化対策に関する情報提供
 - (2) 地球温暖化対策に関する活動への職員の積極的参加の奨励

国立大学法人鹿屋体育大学における
地球温暖化対策に関する実施計画

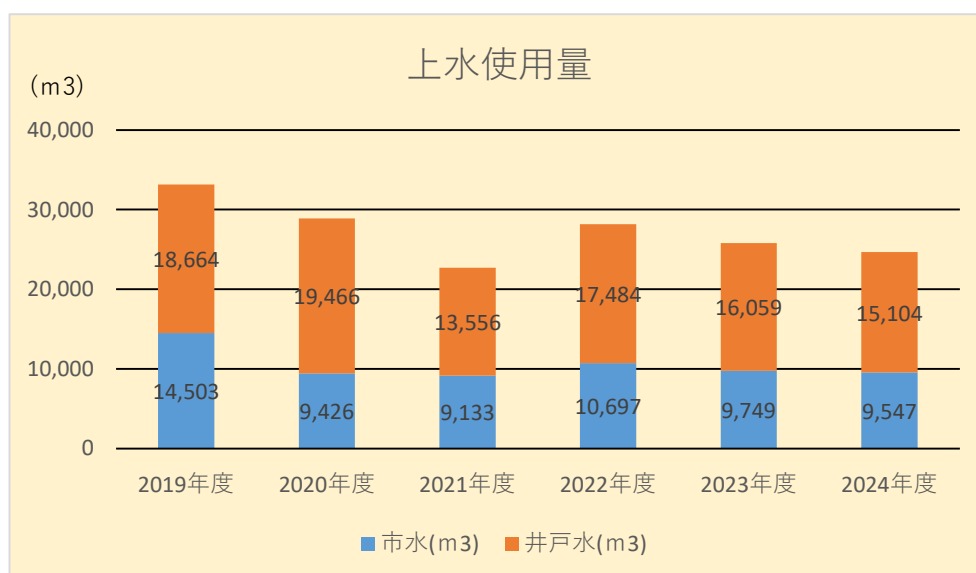
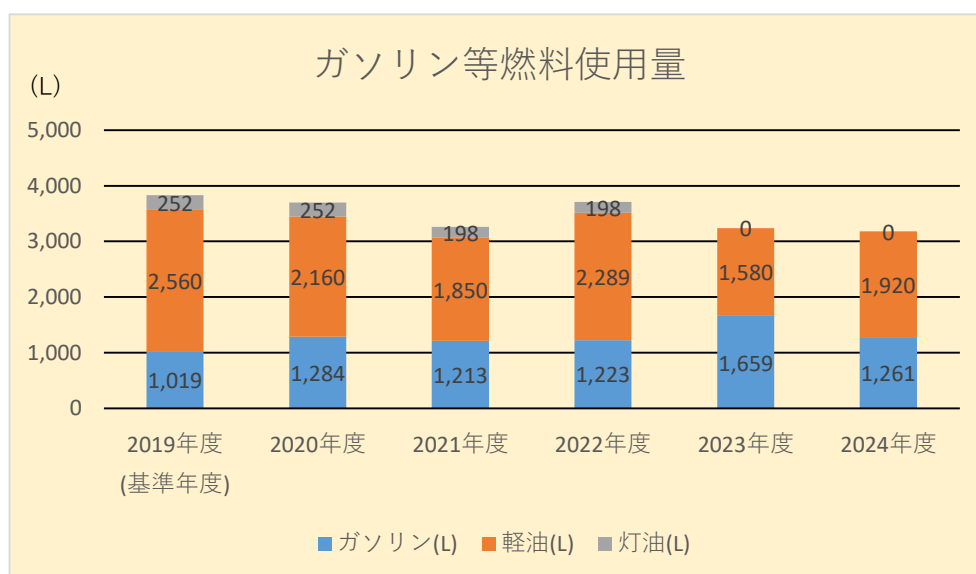
エネルギー等使用量(1)

白水団地・高須団地の合計
(学生寄宿舍は除く)



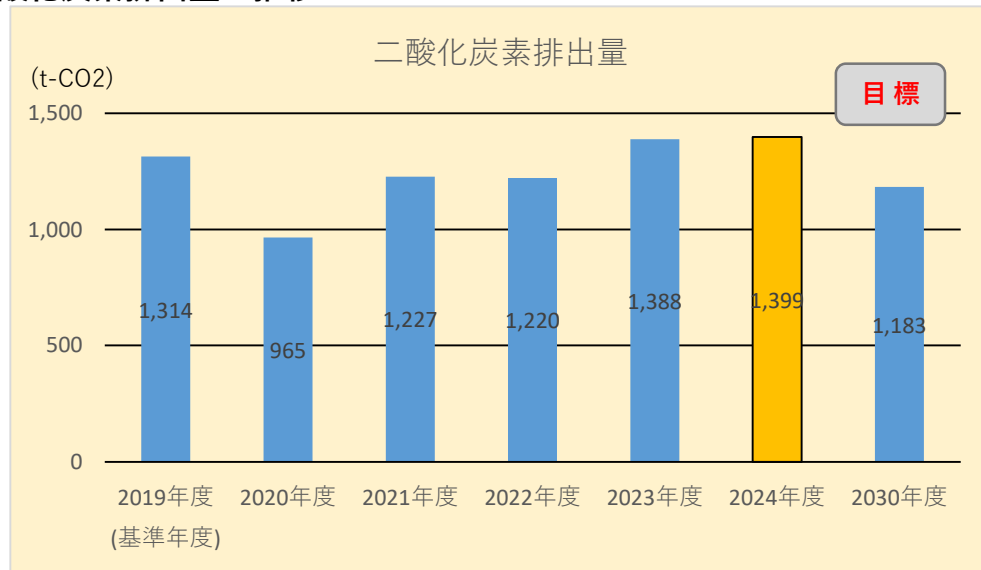
エネルギー等使用量(2)

白水団地・高須団地の合計
(学生寄宿舍は除く)

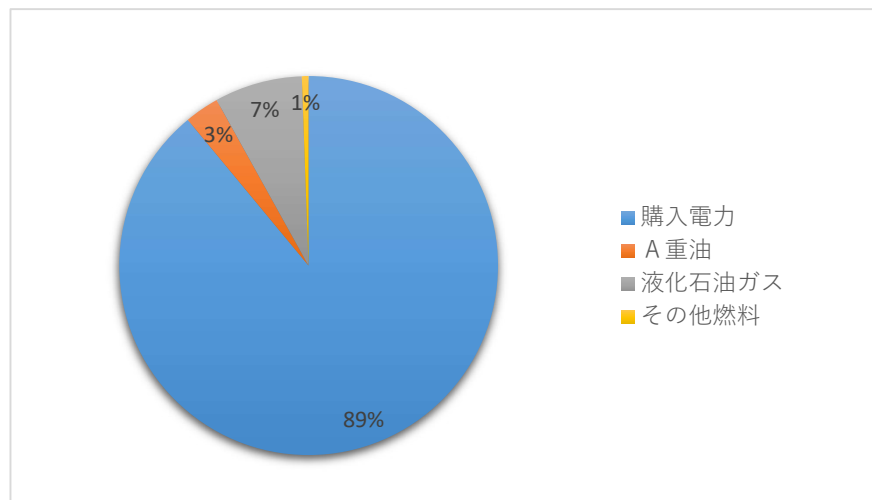


二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量の推移



二酸化炭素排出量の割合(2024年度)



エネルギー別二酸化炭素排出量

(単位 t-CO2)

エネルギーの種類	2018年度	2019年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力	1,287	1,119	800	1,029	1,062	1,250	1,245
A 重油	141	132	118	153	37	42	41
液化石油ガス(LPG)	52	54	37	37	112	88	105
ガソリン	4	2	3	3	3	4	3
軽油	7	6	6	5	6	4	5
灯油	1	1	1	0	0	0	0
合 計	1,492	1,314	965	1,227	1,220	1,388	1,399
原単位(t-CO2/m2)	0.036	0.0317	0.0233	0.0296	0.0293	0.0333	0.0335

環境配慮活動(1)

太陽光発電設備

年間総発電量 50,245(kWh)(2024年度実績)

管理棟 20kW (2009年度設置)、大学会館 20kW (2013年度設置)

スポーツパフォーマンス研究センター 3.9kW (2014年度設置)

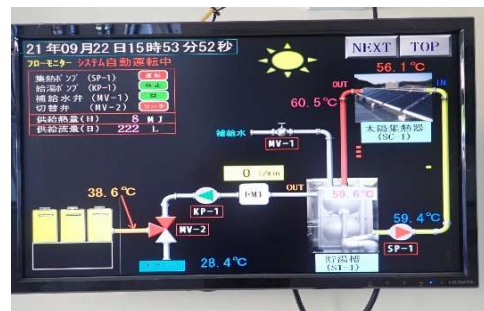


太陽熱給湯設備 体育館等のシャワー水に利用 (LPガスの削減)

真空ガラス管形 (ヒートパイプ形) 太陽熱集熱器

1基最大集熱量 30MJ/day(8月平均値 地域: 鹿屋)

大学会館8基・総合体育館6基(2018年度設置) 屋内実験プール5基 (2021年度設置)



井水設備・中水利用設備

井水設備: 井戸水を水処理し、プールの補給水に利用

中水利用設備: プールのオーバーフロー水を雑用水に利用

市水を年間約 17 t 節水



廃棄物の減量・リサイクルの推進



実験研究棟各階EVホール
分別収集BOX

管理棟印刷室
古紙回収BOX



環境配慮活動(2)

地球温暖化対策取組の自己評価

- ・年1回、年度末に本学構成員全員に通知し自己評価を実施。
- ・結果を推進員連絡会にて取り纏めし、財務・施設環境委員会へ報告。

国立大学法人鹿屋体育大学における地球温暖化対策に関する実施計画

評価・報告シートA (〇〇課)

※行動自己評価 ○：達成（8割以上） △：やや取組不足 ×：取組不足（5割未満） 令和〇年度

	目 的	行 動 計 画	行 動 評 価	
			評価	行 動 内 容
エネルギー使用量の抑制	電力消費量の削減	・クールビズ・ウォームビズの励行		（夏季は涼しい服装、冬季は厚着など）
		・昼休み一斉消灯の励行		（始業前・昼休み・不在にするときなどは、こまめに消灯）
		・照明の不在時、未使用時消灯の励行		（始業前・昼休み・不在にするときなどは、こまめに消灯）
		・電気製品の待機時消費電力の低減		（使わない電化製品はコンセントを抜く）
		・普段使用しない電気製品などのコンセントを抜いておく		（使わない電化製品はコンセントを抜く）
		・空調機の設定温度の厳守（冷房28℃以上） （温度調整可能な空調機のみ対象）		（冷房の設定温度は28℃）
		・空調機の設定温度の厳守（暖房20℃以下） （温度調整可能な空調機のみ対象）		（暖房の設定温度は20℃）
		・不在時の空調OFF		（不在時はエアコンを消す）
		・エレベータの効率的な使用 （最寄り階への階段利用）		（最寄りの階へは階段を利用する）
		・残業の縮減		（定時退庁を心がける→業務効率の向上を図る→人件費も縮減）
		・定時退庁の励行		（定時退庁を心がける→業務効率の向上を図る→人件費も縮減）
	水・ガス使用量の削減	・節水の励行		（水を出しっぱなしにしない、勢いよく水を出さない）
		・シャワー利用時間の短縮		（なるべくシャワーの利用時間を短縮）
用紙類の使用量の削減	用紙類の使用量の削減	・電子メール等の活用によるペーパーレス化		（用紙類の使用量削減の徹底）
		・会議等資料の簡素化		（用紙類の使用量削減の徹底）
		・両面コピー、両面印刷の徹底		（用紙類の使用量削減の徹底）
		・使用済み用紙の裏面利用		（用紙類の使用量削減の徹底）
		・使用済み封筒の再利用		（用紙類の使用量削減の徹底）
物品の購入	グリーン購入の促進	・鹿屋体育大学の「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づく取組		
		・再生紙の使用、再生品等の活用の促進		
廃棄物の減量	廃棄物の減量	・ごみの減量の促進		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
		・ごみの分別回収の徹底		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
		・使い捨て製品の使用や購入の抑制		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
	リサイクルの促進	・新聞、雑誌、不用コピー用紙等のリサイクルの促進		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
		・トナーカートリッジのリサイクルの促進		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
		・缶、びん、ペットボトルのリサイクルの促進		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）
		・再使用可能物品の学内有効利用		（ゴミの分別の徹底・余計なゴミを出さない）

大 学 概 要

大学の基本的な目標

～スポーツで未来を拓く自分を創る～

国立大学法人鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育系大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要な不可欠なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与する。

以上の目的を実現するため、教育、研究、社会貢献及びグローバル化に関する基本目標を以下のとおり掲げ、社会の信頼に応えられるよう自己変革しつつ、個性輝く大学を目指す。

（１）教育に関する目標

学部：スポーツ・健康・武道分野における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有し、広くは国際社会で活躍できる有為な人材を養成する。

大学院：国民のニーズに応じた適切なスポーツ・身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トップアスリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材を養成する。

（２）研究に関する目標

スポーツ・健康・武道分野におけるこれまでの研究実績を生かし、新たな研究領域としてグローバルなスポーツイノベーション研究拠点の構築を目指す。

また、スポーツ活動や指導の実践知に関する「スポーツパフォーマンス研究」との取り組みとも連携し、大会での活躍を目指す本学学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施する。

さらに、本学の基礎的・応用的・実践的領域での研究を組織的・学際的・総合的に推進する支援体制の整備・充実に取り組む。

（３）社会貢献に関する目標

教育研究の成果を積極的に広く情報発信するとともに、開かれた大学として生涯学習の機会を提供し、教育研究資源の開放を行うとともに、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ・武道文化の振興・発展に貢献する。

（４）グローバル化に関する目標

オリンピック・パラリンピック教育や日本のスポーツ・武道文化教育及びスポーツ実践やスポーツ医科学研究を通じて、アジア地域をはじめ海外の若手研究者やコーチと本学学生・教員との積極的な交流を推進するための、グローバルな教育研究拠点を形成する。

基本情報【令和6年5月1日現在】

職員・学生数

教職員数	147(人)
学生数（学部）	774(人)
学生数（大学院）	80(人)

敷地等

延床面積	47,828(m ²)
敷地面積	370,685(m ²)
主要キャンパス	白水団地、高須団地

所在地

白水団地	〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
高須団地	〒891-2393 鹿児島県鹿屋市高須町2457番地



自治体と大学共同による
地域密着スポーツブランド